

Title	科学技術と社会：サイエンス・コミュニケーション (3)
Author(s)	杉山, 滋郎
Citation	年次学術大会講演要旨集, 21: 550-551
Issue Date	2006-10-21
Type	Presentation
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/6266
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	パネル・ディスカッション



パネルディスカッション

科学技術と社会

サイエンス・コミュニケーション

杉山 滋郎（北海道大学大学院理学研究院教授，科学技術コミュニケーター養成ユニット代表）

1. CoSTEP とは

科学技術コミュニケーター養成ユニット（Communicators in Science and Technology Education Program；略称 CoSTEP）が，2005 年度に北海道大学に誕生した。科学技術振興調整費による新興分野人材養成プログラム。広く社会人にも門戸を開いて，科学技術コミュニケーター（科学技術の問題をめぐって，専門家と非専門家との間で橋渡しをする人）を養成している。以下は，そこでの経験に基づく。

2. 誰とのコミュニケーションか

ある体験

コミュニケーションの相手を明確に意識すべき

相手の文脈（コンテキスト）を理解する

「欠如モデル」から「文脈モデル」へ

どんな情報を提供すべきか，の吟味

3. サイエンス・カフェの意義

ある体験

“出ていく”ことの大切さ

ストーリーは参加者とともに作られる

4. 「市民の視点」の重要性

ある体験

「市民」が加わることで，いとも簡単に情報発信の質が向上する。

（ここでの「市民」は，「＜大学の事情＞に染まっていない，かつ広報などの＜業界＞に通じているのではない」というほどの意味）

5. 科学技術への市民参加

「コンセンサス会議」という手法

北海道主催で、遺伝子組換え作物の栽培をテーマに
北海道の施策に反映させることを前提に
他のテーマでも
科学技術コミュニケーターが活躍する場の一つ

参考情報

<http://gm-c.jp/> (コンセンサス会議事務局のウェブサイト)

<http://talk.cocolog-nifty.com/blog/> (ishikari さんのブログ)

6. 人材養成と人材登用の連動が必要